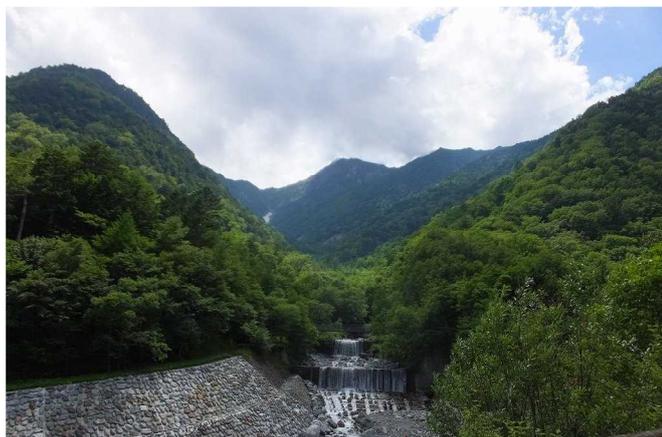


2022年8月1日（月）～5日（金） 夏山合宿山行
南アルプス 広河原～北岳～間ノ岳～農鳥岳～大門沢～奈良田温泉 縦走

今回の南アルプス縦走は2020年の夏合宿のために計画したものです。コロナのために2年間合宿ができず、3年ぶりに計画を実行に移せました。山は変わることはないですが、山小屋が改装中だったり、場所によってはテントが事前予約だったり、この3年で変わったことがあってびっくりしました。合宿期間はおおむね天候に恵まれ、南アルプスの雄大な景色を満喫することができました。一方で稜線での強風や雨を経験したり、気圧の変化で不調になったりとアルプスの厳しさも味わいました。いずれにせよ、コロナで停滞した活動を前進させる貴重な経験をしてきました。

- 1日目 新宿 → 甲府 → 広河原（広河原キャンプ場泊）
- 2日目 広河原 → 白根御池小屋 → 草すべり → 小太郎山分岐 → 北岳肩の小屋
- 3日目 北岳肩の小屋 → （小太郎山ピストン…強風により中止） 北岳(3193m) → 北岳山荘
- 4日目 北岳山荘 → 間ノ岳(3190m) → 農鳥小屋 → 農鳥岳(3026m) → 大門沢小屋
- 5日目 大門沢小屋 → 奈良田温泉 → 飯富 → 新宿



高速バスはほぼ時間通りの運行で、昼過ぎには広河原に到着しました。北岳が顔をのぞかせています。



テントを設営し、明日からの鋭気を養いながら夕食です。明るいですが、じきに日が暮れます。



その日の夕食はカレー。今回は感染症予防で食材に触れる調理は行わず、レトルト食品に頼りました。



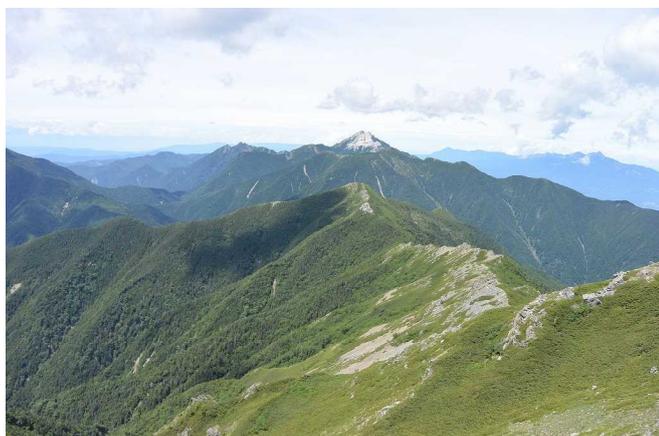
2日目、朝5時出発。北岳の稜線に向かっていよいよ登りが始まります。



白根御池小屋を抜けると草すべりの登りが始まります。炎天下で3時間の登りが続きます。



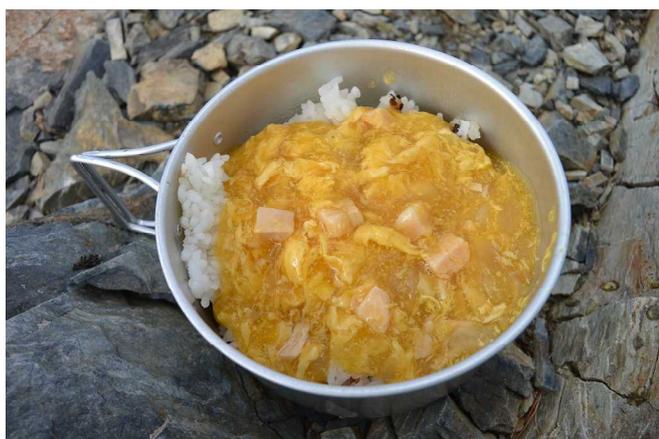
森林限界を超えて、草すべりの登りもまもなく終わります。



稜線に出ると奥多摩では見えない景色がありました。北側には甲斐駒ヶ岳がそびえ立っています。



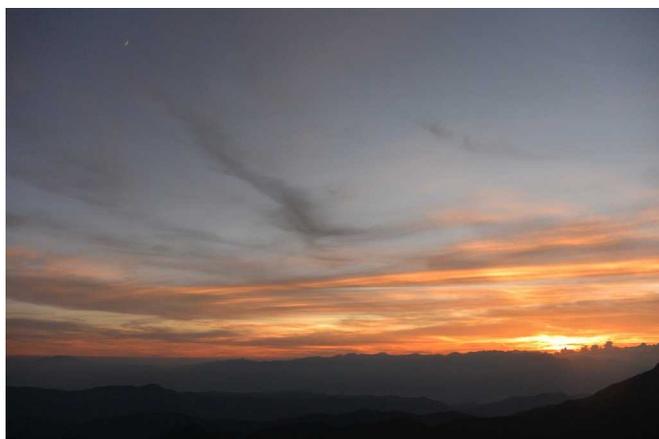
東側には鳳凰三山が見えています。素晴らしい景気を見ながらの贅沢な夕食です。



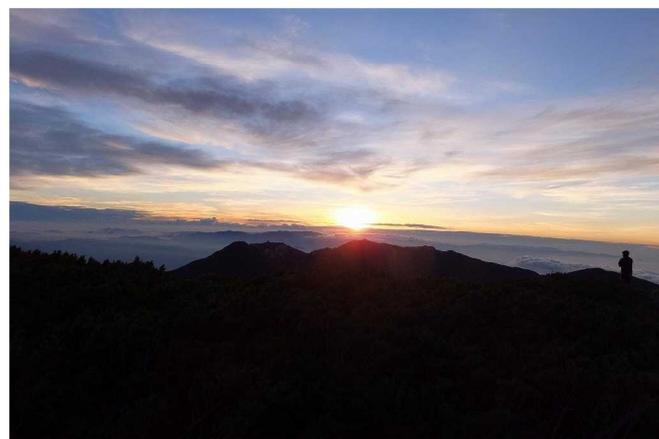
今日の夕食は親子丼。レトルトでも卵がこんなにふわふわです。



ここは標高3000m、日本で最も高い所にあるキャンプ場です。まもなく日没を迎えます。



西側の遠方に見える北アルプスに日が沈んで空が赤く染まります。左の上空には三日月が出ています。



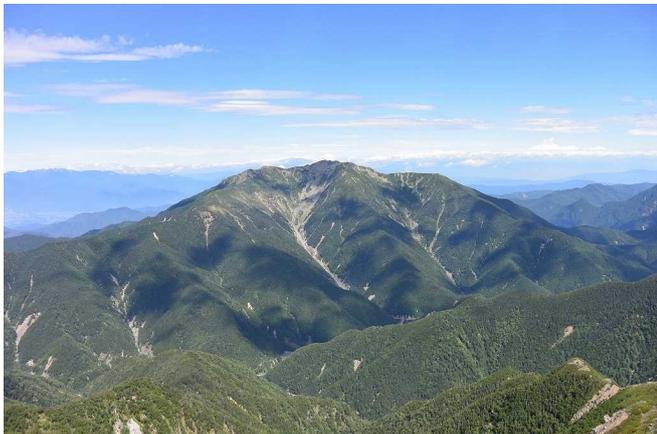
3日目の5時、今度は東側、鳳凰三山の奥の雲海からご来光です。



富士山のシルエットがきれいです。しかし、この日は強風で、小太郎山への朝の散歩は中止しました。



強風の中、全員で協力してテントを撤収し、これから北岳山頂を目指します。



西側を見下ろすと、おおらかな姿の仙丈ヶ岳がどっしりと構えています。



無事に北岳に登頂しました。3193m、日本第2位の標高です。



この日は北岳山荘まで下って移動終了です。その分、明日は長距離移動が待っています。



4日目。天気予報は濃霧と雨。予報通り霧が出てきていますが、間ノ岳に向けて登山開始です。



霧がわいてくると、前方の景色が隠れてしまいます。でも、風によって霧が晴れることもあります。



間ノ岳山頂直前で、とうとう雨に降られました。無事山頂に着きましたが、景色は何も見えません。



雨は止みました。霧が山の斜面を移動していきます。幻想的な景色です。



農鳥小屋に到着して休憩します。小屋の親父さんは元気でした。



農鳥岳に登頂しました。山頂では方角によっては霧が晴れ、景色が見えました。ラッキーです。



南アルプス南部の山々が見えています。こうした景色を見ながら移動するのが稜線歩きの醍醐味です。



大門沢への降下点に到着。南アルプスの稜線の景色とはここで別れです。



この場所は雲よりも上。周囲の山の姿も雲に隠れましたが、さすが富士山の頭だけは雲の上です。



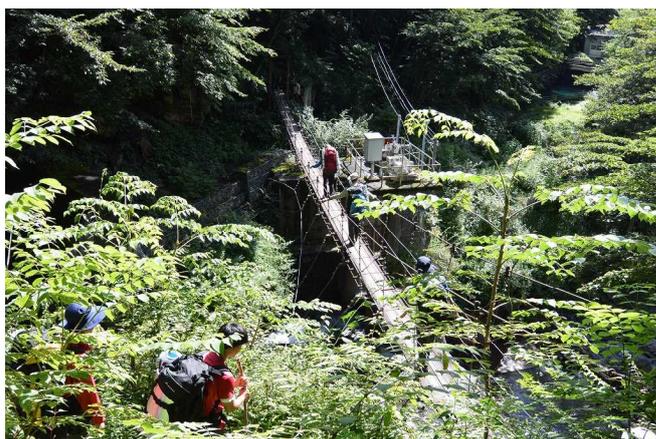
最終日の朝は晴れ。大門沢のキャンプ場は正面に富士山が見えます。出発準備を整えます。



奈良田温泉までは沢沿いに3時間の道のりです。何度か川を渡ります。



だいぶ下りてきました。奥多摩と変わらない登山道の景色になりました。



しっかりした吊り橋を渡ると、まもなく奈良田発電所です。



奈良田温泉に到着。5日ぶりのお風呂です。感染予防対策で2グループに分けて入湯です。



昼食は山梨名物のほうとう定食と、イワナの塩焼き、ご当地豚のベーコンステーキをいただきました。

